

【 第26回男子世界選手権 】

2019年1月10日～1月27日 開催地:ドイツ、デンマーク

試合結果報告 1 月 11 日 (金)

JPN	VS	MKD
13	前半	18
16	後半	20
29	合計	38

個人得点

No.	名前	得点	合計
7	宮崎 大輔	3	3
13	笠原 謙哉	2	2
15	部井久 アダム 勇樹	2	2
16	甲斐 昭人		0
18	成田 幸平	2	2
19	徳田 新之介	2	2
20	渡部 仁	5	5
21	土井 レミイ 杏利	2	2
24	信太 弘樹	4	4
25	元木 博紀		0
26	久保 侑生	1	1
27	玉川 裕康	1	1
29	岡元 竜生	1	1
31	吉野 樹	2	2
33	東江 雄斗	2	2
44	門山 哲也		0
			29

戦評

第26回男子世界選手権大会ドイツ、デンマーク大会のグループBの初戦は、ドイツ・ミュンヘンにおいて日本対マケドニアであった。

開始早々に日本は渡部のカットインで先制、その後もGK久保のファインセーブが続き、素晴らしい滑り出しであった。ところがマケドニア5番STOILOVのポストプレーに対する反則退場や7mTを許し、厳しい試合展開となってしまう。キャプテン信太らのテンポのいいプレーで反撃するが、前半は13対18と5点のビハインドで終了した。

後半、日本は攻撃的な6:0ディフェンスに変えて、ポストの守りをはっきりさせる策に出た。すると明らかにマケドニアの攻撃のテンポが崩れ、日本の流れで試合が進み始め、吉野らの得点で追い上げを見せて、後半7分18対21と3点差に詰めた。しかし、マケドニアは7人攻撃を展開、3番MNASKOVのサイドシュートなどで傾きかけた流れを日本に与えない。7人攻撃の交代の隙をつき、速攻やクイックスタートで成田、笠原らが得点を挙げていく日本であったが、中盤以降マケドニアも日本ディフェンスに対応し、7番LAZAROVのパスさばきからスカイプレーやポストプレーを効果的に決めていった。終盤には焦りから攻撃が単調になった日本は逆速攻を許してしまい、29対38の9点差での敗戦となった。

失点が多く、点差こそ開いてしまったが、試合展開としては緊張した展開であり、マケドニアもメンバーを落とすことなく戦い抜いたことを考えると、これまでのトレーニングの成果が発揮され、初戦としては手応えのある内容であった。

報告記入者 : 舍利弗 学